

## 短期入所サービスの利用にかかる理由書（記載例）

提出日	令和 3 年 11 月 20 日	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続
-----	------------------	--

芦屋市福祉部 高齢介護課長 あて

ふりがな	あしや たろう															
名前	芦屋 太郎				住所	芦屋市精道町〇-△△										
被保険者番号	0	0	0	0	0	〇	〇	×	×	△	生年月日	昭和 △ 年 □ 月 ◇ 日			介護度	要介護 4
認定有効期間	令和 3 年 10 月 1 日 ~ 令和 4 年 9 月 30 日（12 か月）										有効期間の半数	180 日				
利用者の状況及び意向等	<p>（身体状況、生活状況、サービス利用状況、家族構成など）</p> <p>集合住宅に独居。妻は他市の施設に入所している。自宅では週2日のデイサービス、週3日のショートステイを利用し、近隣市に住む長男家族が訪問することで生活を維持してきたが、令和3年10月に自宅浴室で転倒し、左大腿骨骨折となり、現在は車いす生活。入院中に夜間のせん妄等が出現した。下肢筋力の低下もみられ転倒リスクが高いが、病識が薄く、自身で動くとするなど、常時見守りが必要な状態。本人は自分でできることは自分でしたいという思いが強く、施設入所には抵抗あり。また、気難しい性格もあり、慣れた支援者以外での支援は受け入れがたい。</p>															
短期入所サービスを長期利用する理由	<p>キーパーソンである長男が在宅生活の支援を継続していきたいとの意向はあるが、長男には癌が見つかり、入退院を繰り返している状況。長男家族も長男の支援のため、常時の支援は難しい。身体状況の変化から常時見守りが必要だが、本人は自分でできることは自分でしたいという思いが強く、今までの生活を送ろうと特に夜間に1人で動こうとしてしまう。本人の意向を尊重し、なるべく在宅での生活を維持するため、継続して利用し慣れているショートステイの日数を増やし対応する。</p>															
今後の方針及び施設等申込状況	<p>主治医からは施設入所の検討も視野に入れるよう話もあったが、現在は本人の意向通り少しでも在宅生活を維持できるように支援していく。長男の入院中は、長男家族の支援が可能である週末のみ自宅に帰り、入浴などは訪問介護、訪問看護等を利用しながら支援。長男が退院すれば、ショートステイの日数は減らすが、入院が長期化した場合は小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護等の利用も提案していく。</p>															
利用状況	有効期間の半数を超える月				令和 4 年 6 月			提出月末までの利用日数計				27 日				
直近の短期入所サービス利用	利用（予定）月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
	利用（予定）日数	2日	25日	24日	25日	23日	25日	25日	25日	24日	25日	25日	24日			
	うち連続利用制限	0日	0日	0日	0日	0日	0日	0日	0日	0日	0日	0日	0日			
	うち限度額超過	0日	3日	2日	3日	1日	3日	3日	3日	2日	3日	3日	2日			
	当該月までの累計日数	2日	27日	51日	76日	99日	124日	149日	174日	198日	223日	248日	272日			

上記の理由により、短期入所サービス利用日数が認定有効期間の半数を超える計画を作成しましたので届け出ます。

事業所名	ケアプランセンターあしや
担当者	芦屋 花子

電話	0797-38-〇〇△△
----	--------------

【芦屋市確認欄】

承認日	／	備考	
-----	---	----	--